

平成 28 年度
事業報告書

平成 28 年度事業報告

1 総括

当財団はこれまで、レーザやプラズマを用いた新しい加工技術に関する研究開発や地域企業へのものづくり技術に関する広範囲な技術支援に努めてきている。

調査・研究事業では、マルチ共同研究第Ⅶ期の3年目の活動として、レーザビームを用いた新しい生産プロセスに関する技術開発を実施し、また、技術支援事業・普及啓発事業においては、ものづくり総合相談事業、人材育成・技術力向上支援事業、技術開発・試作支援事業を行ってきている。

ものづくり総合相談事業では、相談業務を企業支援の第一歩と位置づけ重点項目として取り組みを行い、今年度新たに所内で相談内容等を共有できる相談データベースを開発し、運用することで利用者へのサービス向上を図った。さらに広報を充実するためにホームページをリニューアルし、加えて、広報・営業担当職員を採用するとともにメールマガジン等による案内の充実、積極的な広報、PR活動により新聞、TV等へのAMPIの掲載も大幅に増加した。

人材育成・技術力向上支援事業では、継続してものづくり技術に関するセミナー、先進ものづくり工場等の見学会を開催するとともに、新たな取り組みとして尼崎市内の若手技能者の育成を目的に「尼崎ものづくり未来の匠選手権」を開催した。さらにAMPI独自の機器講習会をニーズに応じてきめ細かく開催するとともに、「異物解析に挑戦」をテーマにAMPIオープンラボ開催した（平成26年度に続き2回目）。

技術開発・試作支援事業では、新技術・新製品の開発と地域独自産業の創出を目指し、国、兵庫県や尼崎市などの助成制度を活用した研究及び地域企業との共同研究に継続的に取り組んだ。

また、平成27年度から受託している兵庫県の次世代産業雇用創造プロジェクト事業を推進し、レーザ等による先端加工技術の普及・啓発、および水素関連産業への企業参入支援を目的としセミナー、見学会を実施した。

加えて、他機関との連携による技術支援については兵庫県立大学産学連携研究機構、(協)尼崎工業会に加え、平成28年2月に締結した尼崎信用金庫、(公財)新産業創造研究機構、AMPIとの3者による連携技術相談事業を推進し、地域企業への技術支援を行った。

以上のように当年度も、精力的な事業活動を展開することができた。

2 役員会等

(1) 理事会の開催

- ① 第1回通常理事会（平成28年6月6日）
 - ・平成27年度事業報告及び決算報告について
 - ・平成27年度公益目的支出計画実施報告の承認について
- ② 第1回臨時理事会（平成28年7月5日）

- ・理事長、副理事長及び専務理事の選定について

③ 第2回通常理事会（平成29年3月21日）

- ・平成29年度事業計画及び収支予算について
- ・理事辞任に伴う後任理事選任に関する臨時評議員会の議事の省略（書面評決）について

(2) 評議員会の開催

第1回通常評議員会（平成28年6月22日）

- ・平成27年度事業報告及び決算報告について
- ・平成27年度公益目的支出計画実施報告の承認について
- ・評議員の選任について
- ・役員を選任について

3 調査・研究事業

(1) マルチ共同研究

第Ⅶ期(平成26年度～平成28年度)「高エネルギー密度熱源を適用した新生産プロセス技術に関する研究」の3年目の取り組みとして、レーザ溶接に関する試験の実施とその試験結果の調査のための計測・評価を行うとともに、各種接合技術やレーザ技術に関する調査研究を実施した。

(2) 関係企業との個別共同研究

プラズマ放電応用装置に関する開発、および兵庫県 COE プログラム（兵庫県最先端技術研究事業）推進事業の一環としての樹脂シートのクリーン切断技術の開発を実施した。

(COE:Center Of Excellence)

4 加工技術に関する支援及び普及啓発事業（ものづくり支援センター）

地域企業の「ものづくり新技術の創生」、「ものづくり技術の高度化」等を目的とする「ものづくり支援センター」では、平成13年度から設置している「ものづくり支援センター活用推進委員会」での協議を踏まえて、兵庫県や尼崎市との連携により技術支援・普及・啓発活動の拡大を図ってきた。

(1) ものづくり総合相談事業

相談業務を技術支援の基本と位置づけ継続的かつ重点的に取り組みを行った。

企業に密着した技術支援として企業訪問による支援および総合的なものづくり技術相談について、尼崎市「尼崎市ものづくり総合支援事業」、新産業創造研究機構「兵庫ものづくり支援センター事業（兵庫県）」、阪神南県民センター「阪神南リーディングテクノロジー実用化支援事業（LT事業）」、西宮市「元気産業支援事業」の各事業により積極的に実施した。

さらに、新たな企業支援の仕組みとして、「尼崎信用金庫、NIRO、AMPI 連携相談事業」および「ものづくりアシスト事業」（尼崎信用金庫、尼崎商工会議所、AMP I、尼崎市）の2つの事業を実施し、企業の支援を行った

- ・依頼試験・機器利用 1,156 件（昨年度 1,011 件）
- ・技術相談件数 2,482 件（昨年度 3,258 件）

- ・企業訪問支援 36社 145回 (昨年度 122回)
(新規企業訪問 13社、LT企業3社認定)
- ・技術アドバイザーによる企業派遣指導 6社 15回
- ・尼崎信用金庫、NIRO、AMPI 連携相談事業 15件
- ・ものづくりアシスト事業 (尼崎信用金庫、尼崎商工会議所、AMPI、尼崎市)
2企業に対して技術審査を実施

(2) 人材育成・技術力向上支援事業 64回 1,311名(昨年度 60回 1,058名)

機器講習会、技術講演会、見学会等を開催し、技術者の育成を図った。

- ・機器講習、金属プレス技能講習・検定等 43回 453名
- ・技術講演会の開催 11回 618名
(次世代産業雇用創造事業、レーザ関連2回、水素関連3回を含む)
- ・先進工場等見学会 3回 84名
- ・水素関連施設見学 3回 72名
- ・ものづくり体験教室の開催 4回 76名

(3) 技術開発・試作支援事業

先端加工技術、新素材加工技術などの適用により地域企業の既存製品の高付加価値化及び新技術・新製品の開発に貢献することを目的として、AMPIの保有技術を核とし、一部公的助成金を得ながら企業と共同で技術開発を実施した。

特に、兵庫県「次世代産業の創出による雇用創造プロジェクト」の一環として、レーザ加工技術、とりわけ、金属表面上にレーザビームを照射するとともに高機能粉末を精密に供給して高機能金属被膜を形成するレーザ粉体肉盛り技術の開発を推進し、生産工程の抜本的革新、新規事業開拓支援による雇用創造活動を実施した。その中で、肉盛り加工に関する弊所独自の試験データ取得とその公表・紹介および企業対応の試作を行うとともに、レーザ加工関連技術に関する講演会、実習を伴うセミナーを実施した。

また、21世紀阪神南リーディングテクノロジー実用化支援事業において企業との共同研究を実施し、新技術開発に寄与した。

推進した技術開発テーマの総数：22テーマ (昨年度 24テーマ)

- ・助成金採択案件の総数：17テーマ (昨年度 14テーマ)
(採択内訳 国:7件、兵庫県:7件、尼崎市:2件、その他:1件)
- ・雇用創造プロジェクト関連の講演会、実技セミナー:5回 109名
- ・研究会の開催：
ドライコーティング研究会 3回 148名

(4) 尼崎ものづくり未来の匠選手権の開催

尼崎市内の企業に就業する若年技能者を対象として、技術力及びやる気向上を目的として、ものづくりに関する技能選手権を新規事業として下記のとおり実施した。

開催日・場所：2016年9月25日(日) ポリテクセンター兵庫

主催：(一財)近畿高エネルギー加工技術研究所

共催：尼崎市・ポリテクセンター兵庫・尼崎工業会・兵庫電気工事工業組合尼崎支部、

兵庫電気工事工業組合青年部尼崎支部

競技種目・選手数：溶接競技 15名、電気工事競技 5名

来場者数： 230人（一般来場者150人、選手・関係者80人）

表彰： 尼崎市長賞 2名、入賞者 10名

(5)シニアファクトリー研究会 2回 38名

高齢化社会の人材活用、企業の労働力不足の問題解決等を目的として、退職後の高齢者による新たなものづくり工場の仕組みの開発に向けた研究会を発足した。

(6) 情報の収集・提供事業

- ・見学者受入れ 29回、延べ 235名

- ・産業フェア等への出展

「あまがさき産業フェア 2016」への出展

平成 28年 8月 8,9日、ベイコム総合体育館

阪神南県民センターとの共同出展、LT 企業の PR、AMPI 保有技術紹介

「国際フロンティア産業メッセ 2016」への出展

平成 28年 9月 4,5日、神戸国際展示場

阪神南産業クラスターとして 19 企業 3 団体が共同出展

「兵庫県立工業技術センター研究成果発表会」への出展

平成 28年 11月 1日、兵庫県立工業技術センター

「西宮産業フェア」への出展

平成 28年 11月 10,11日、西宮市民会館

- ・当財団ホームページのリニューアル（12月）および掲載データの更新（随時）

- ・新聞等にみる AMPI

新聞による報道 神戸新聞等 5件

業界紙、機関誌等による報道 12件

ラジオ、テレビ等による報道 4件

以上